

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520432

研究課題名（和文） 台湾中央研究院所蔵イ（ロロ）文字文献の分類・解読・解題

研究課題名（英文） An Annotated catalogue of Yi (Lolo) manuscripts in Academia Sinica, Taiwan

研究代表者

清水 享 (SHIMIZU Toru)

東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：90511048

研究成果の概要（和文）：台湾中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館に所蔵されているイ（ロロ）文字文献の解読を行ない、解題と解説を作成した。本図書館にはおよそ 250 点のイ（ロロ）文字文献が所蔵されている。これらは 1940 年代に中国西南地方で収集されたもので、現在その多くが書名やその内容が不明だった。本研究により、これらの文献のうち、150 点の書名と内容を解明し、解説と解題を取りまとめた。このなかには他ではすでに失われた文献の発見もあった。

研究成果の概要（英文）：This study annotates Yi (Lolo) manuscripts held in the Fu ssu-nian Library, Institute of history and Philology at the Academia Sinica, Taiwan; it includes bibliographical notes and commentaries. Approximately 250 Yi (Lolo) manuscript are held in this library. These were collected in Southwest China during the 1940s. No one could read many either the titles of the manuscripts or their contents. This study has clarified the titles and contents of 150 manuscripts and contents. The catalogue includes manuscripts which were thought to have been lost.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、危機、少数民族言語

キーワード：台湾中央研究院、イ（ロロ）文字、イ（彝）族、雲南・四川、馬学良、傅斯年図書館

1. 研究開始当初の背景

中国西南地方の雲南省、四川省、貴州省に居住する少数民族「イ族」は、漢字と異なる文字を使用している。明清時代から民国時代にかけて多くのイ文字の文書が著され、その内容はイ族の宗教的な教義や儀礼の方法を

記した文書や天文・暦法、祖先の事蹟・系譜、神話・伝説などである。

近代以降、多くの人類学者、歴史学者、言語学者がこのイ（ロロ）文字文書に注目し、収集・分析・研究を進めてきた。そうしたなか 1937 年に日中戦争が全面拡大化し、中国の

研究機関が雲南省などに疎開をし、国民政府の研究機関である中央研究院も同地に疎開をした。このときに馬学良などの研究者がイ族地区で多くのイ(ロロ)文字文書を収集し、研究を活発に進めたのである。このときにこの中央研究院は多くのイ(ロロ)文字文書を収蔵した。その後、国共内戦で中央研究院は台湾へ移り、イ(ロロ)文字文書も台湾へ運ばれた。しかし、イ族の文化や言語を研究する場学良などの学者は誰も台湾には渡らず、大陸に留まった。これにより、研究資料であるイ(ロロ)文字文書は台湾に移されたが、誰にも研究されることなく、言わば死蔵され続けていた。

それがここ数年、このイ(ロロ)文字文書を所蔵している中央研究院歴史言語研究所傅斯年図書館が「ロロ文字文献」、「ロロ文字経典」として分類し、資料のデータベース化、電子化を進めており、ようやく閲覧ができるようになったのである。しかし、イ(ロロ)文字を読む専門家はおらず、その多くが書名さえ分からない状況だった。

2. 研究の目的

中央研究院歴史言語研究所傅斯年図書館に現在でも所蔵されているイ(ロロ)文字文書は台湾に移送されてから、ほぼまったく研究はされていない。台湾にはイ族の文化、歴史、言語について研究する専門家がないのが主な理由である。中国大陸の研究者もごく一部が本図書館のイ(ロロ)文字文書の存在を認識しているだけで、研究話されてこなかった。これは台湾と中国には政治的な状況が関係しているが、現在中国大陸の各研究機関でも、収集した未整理のイ(ロロ)文字文書の整理、分析作業は作業途中であり、海外や台湾で所蔵されているイ(ロロ)文字文書の解読作業まで手がまわらないのである。

中央研究院所蔵のイ(ロロ)文字文書は同治年間(19世紀)の木版本などの貴重本とイ(ロロ)文字でないナシ族のトンパ文字文書、タイ文字文書も混入していたり、書名さえ不明であったり、非常に混乱している状況だった。おそらく台湾に搬送された70年前に収集したままの状態を保管され続け、文書の内容を確認せず、そのまま登録されただけだった。本研究の目的はこうした未整理の中央研究院歴史言語研究所傅斯年図書館所蔵のイ(ロロ)文字文書をもう一度精査し、その文書に書かれている内容を分類整理確認し、解読し、解題を作成することだった。あわせてこれらの文書の来歴も分析考察しようと試みたのである。

3. 研究の方法

初年度(平成21年度)は始めに台湾中央研究院傅斯年図書館に所蔵されているイ(ロロ)文書の所蔵状況の確認作業を行った。当該図書館には目録番号により273点のイ(ロロ)文書が所蔵されていることが分かった。確認をしてみると、そのうち9点が漢文の文書、1点がタイ文字文書、18点がナシ族トンパ文書であり、イ(ロロ)文書は247点であることが判明した。またこのうち50点前後の損傷が激しく閲覧ができなかった。時間的な制約もあり、主に書名不明の文書を優先して閲覧と複写を行った。最終的に159点の複写を行った。当図書館のイ(ロロ)文書の大半は当研究院の馬学良氏が1940年代に収集したものであり、その経緯を精査するために、馬学良氏に関する公文書も閲覧し、必要な箇所を複写した。

この複写したイ(ロロ)文字に関して北京の中央民族大学のイ(ロロ)文字文献の専門化である黄建明氏や上海大学のイ族文化社会の専門家である巫達氏らとともにその書かれた地域の特定作業を行った。そして雲南省紅河州近辺の南部方言区の文書、四川省涼山州の北部方言区の文書、雲南省禄勳・武定地域の文書であることが判明した。こ

これらの文書の複写を雲南・四川のイ族地域に持ち込み、各地域のイ文字の専門家をインフォーマントとして、分析作業に入った。東部方言区の文書は雲南省昆明市において雲南民族出版社の張仲仁氏と、北部方言区の文書は四川省西昌市において涼山州言語文字委員会のモソツホ氏と、南部方言区の文書は雲南省蒙自市において紅河州民族研究所(当時)の俣龍貴氏と解読分析作業に入った。

第2年度(平成22年度)も昨年度から行っているこれらイ(ロロ)文字文書の解読分析作業を引き続き進めた。まずそれぞれの文書がどの地域で書かれた文書であるか、確認作業をした上で、文書の読み込み作業を進めた。主にインフォーマントが文書を読み上げ、研究代表者がその内容の確認をする方法を取った。そして、その書名と内容を取りまとめた

そして東部方言区の文書の多くがイ族の祭司であるピモが各種儀礼の際に使用する経典であることが分かった。また、南部方言区の文書は漢族の民間説話など漢文の文書からの翻訳およびイ族の解釈による要約などだった。そして同治年間の木刻本についてはがあり、弧本であることが確認され、貴重な資料であることが判明した。この南部方言

区の文書は紅河県樂育郷で書かれたものと同定された。北部方言区の文書はイ族の祭司であるピモが儀礼の際に使用する經典であることが多いことが分かった。

最終年度（平成 23 年度）も引き続きこれらイ（ロロ）文字文書の分析作業を進めた。その内容および書名について判明した文書について、解題を作成する作業も同時に進めた。解題は主にインフォーマントであるモソツホ氏、張仲仁氏、龍傑貴氏によってまとめられ、それをさらに研究代表者とともにさらに検討を加えた。その上で解題の日本語訳も作成した。

最終的に書名と内容が判明した 150 点の文書に関して、中国語、日本語と解題を作成した。またあわせて、これらの中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館イ（ロロ）文字文書の特徴と来歴などに関する解説も作成した。

この 150 点のイ（ロロ）文書の解題と解説は『台湾中央研究院傅斯年図書館所蔵彝文（僮僮文）文書解題』として、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所から平成 24（2012）年 3 月に刊行した。

4. 研究成果

本研究の研究成果として主なものは『台湾中央研究院傅斯年図書館所蔵彝文（僮僮文）文書解題』の刊行である。

本書には 150 点の文書の解題が掲載されている。この解題は台湾中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館に所蔵されているイ（ロロ）文字文書の解題である。この傅斯年図書館に所蔵されているイ（ロロ）文字文書は蔵書分類目録上では 273 点ほどあった。しかし、なかには漢文、トンパ文、タイ文の文書も混じっており、それらを除いて 247 点がイ（ロロ）文字文書だった。そのうち 150 点について分析を行ない、解題をまとめたものである。

中華民国の国家的な研究機関である中央研究院は日中戦争時は西南地方へ疎開した。国共内戦以後、現在の台北の地へと落ち着いた。この中央研究院に所蔵されているイ（ロロ）文字文書はこの疎開していた時期に収集されたものと推定される。これらの文書は研究所の移転とともに台湾へ移送され、後に開設された傅斯年図書館に収蔵された。しかしこれらを収集したイ（ロロ）文字文書の専門家は大陸に残って研究を続けた。そのため台湾に移送された文書と専門家は分断され、その後傅斯年図書館のイ（ロロ）文字文書はほとんど誰にもかえりみられることはなくなってしまった。中央研究院のイ（ロロ）文字

文書のこのような経緯は中国大陸のイ（ロロ）文字文書の研究者によく知られていたものだった。しかし、台湾と大陸で分断された状態で誰も詳細を調べることができなかった。また台湾にはイ（ロロ）文字文書やイ族文化に関する研究者はおらず、これらの文書は長い間、誰も手をつけてこなかった。

ようやく最近このイ（ロロ）文字文書を閲覧できる環境が整ってきたが、傅斯年図書館には彝文（僮僮文）を読める関係者はおらず、文書に漢語の書き込み、メモ、付箋がない場合は書名などが不明だった。そのため蔵書分類目録でも書名が「僮文文書」、「僮文經典」だけとなっているものも多かった。本研究はこの書名さえ不明であった文書の書名と内容を検討し、その多くを判明させた。そしてその多くはイ族の祭司であるピモが各種儀礼の際に使用する經典であることが分かった。またなかには漢族の民間説話など漢文の文書からの翻訳およびイ族的解釈による要約なども少なくなかった。この他に創世神話などの内容のものも見られた。

傅斯年図書館の全イ（ロロ）文字文書のうち、全体のおよそ 60% について解題を作成し、中国語と日本語で示すことができたことも大きな成果である。これにより、当該図書館のイ（ロロ）文字文書を利用する上で、重要なインデックスとなる基礎的な資料を提供した。

これら傅斯年図書館に所蔵されてるイ（ロロ）文字文書は分析の結果、4 地域のイ（ロロ）文字文書であることも判明した。それは東部方言区の雲南省禄勳・武定地域、北部方言区の四川省涼山地域、南部方言区の雲南省紅河地域、東南部方言区の雲南省昆明の 4 地域の文書であった。このうち北部方言区の文書の一部は美姑県や我辺県付近のものであることが判明した。南部方言区の文書は紅河県樂育郷という地域で書かれたものが多いことが分かった。またこの南部方言区の文書には同治年間の木刻本『古今未有』（『ングジシェジョ（艾簡申覚）』）があり、この文書が中国大陸にも残されていない孤本であることが確認され、非常に貴重な資料であることが判明した。これは本研究で得た非常に大きな研究成果であるといえる。また木刻本では東部方言区の文書で、中国大陸でも複数確認されている明代の『勸善書』が収められていることも判明した。

本研究ではこれらのイ（ロロ）文字文書の来歴についても考察を行なった。その多くが著名な言語学者馬学良によって収集されていたことは、文書の分析作業のなかで確

認できた。また南部方言区の文書に関しては、1940年代に雲南省政府の依頼を受けて南開大学の陶雲逵、邢慶蘭らが元江や紅河の調査を行なった時に収集した可能性を指摘することができた。

以上のように、本研究により、未解明な部分が多かった台湾研究院歴史語言研究所傅斯年図書館所蔵のイ（ロロ）文字文書の全貌の一端を解明することができた。

この他に2011年1月にヤオ文化研究所・ランテンヤオ文書保存プロジェクト合同シンポジウムにおいて、中国の少数民族文字文書の写真撮影記録に関する報告を行なった。この報告では文書保存の方法を考察した。これも本研究の付属的な成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

清水享、フィールドにおける民間伝統文書の写真撮影、ヤオ文化研究所・ランテンヤオ文書保存プロジェクト合同シンポジウム、2011年1月10日、東京大学農学部7号館

[図書] (計1件)

清水享編著、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、台湾中央研究院傅斯年図書館所蔵彝文(傣僳文)文書解題、2012、208

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 享 (SHIMIZU Toru)

東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：90511048